第２課　エルサレムからバビロンへ

【暗唱聖句】

「この四人の少年は、知識と才能を神から恵まれ、文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた。」ダニエル1:17

【日曜日・神の主権】

「…バビロンの王ネブカドネツァルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。主は、ユダの王ヨヤキムと、エルサレム神殿の祭具の一部を彼の手中に落とされた。ネブカドネツァルはそれらをシンアルに引いて行き、祭具類は自分の神々の宝物倉に納めた」ダニエル1:1，2

ユダはバビロンによって包囲され滅ぼされてしまいます。その後多くのユダの人々は殺され、一部の残された人はバビロンに捕囚として連れてこられます。神殿の祭具などは、バビロンの神殿に納められました。バビロンの神殿はシンアルにありましたが、そこはいみじくもバビロンの名の由来となったバベルの塔が建てられた場所でした。このようなことが起こったのは、ユダの人々が神様に逆らい続けた結果でした。このような結果をむかえることを、主は何度も預言者たちを通して語っていましたが、民たちは耳を傾けようとはしませんでした。

「ユダの王マナセはこれらの忌むべきことを行い…偶像によってユダの人々にまで罪を犯させた。それゆえ、イスラエルの神、主はこう言われる。『見よ、私はエルサレムとユダに災いをもたらす…私の民の残りの者を見捨て、敵の手に渡す。その者たちはあらゆる敵の餌食となり、獲物となる。先祖がエジプトを出た日から今日に至るまで、彼らは私の目に悪とされることを行い、私を怒らせてきたからである。」列王記下21:10～15

ユダがバビロンによって陥落した背後には、すべて神様の御手がありました。「主がユダの王ヨヤキムと神殿の祭具の一部を彼の手に渡した」とダニエルは明確に述べていますが、ユダが滅ぼされた背後には、主ご自身がおられ、神様の主権の中で行われたということを彼は理解していました。そのことが歴史の主権は常に神様が握っておられることを知っていたので、それがダニエルの支えとなっていきました。

私たちも同様に神様に逆らい続けるならば、神様はその守りのみ手を外されることがありえます。しかし、それは神様が私たちをお見捨てになったのではありません。むしろ、神様から遠く離れてしまっていたことに気がついて、ご自分のもとへ帰ってきてほしいからなのです。常に神様の赦しとご計画の中ですべてのことが起こるのです。

【月曜日・圧力下の信仰】

「侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシャツァル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ。」ダニエル1:7

ユダの人々の中から、ダニエルをはじめとする4人の優秀な若者が選ばれ、王室で仕えるために強制的に訓練を受けることになりました。「体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力があ」（ダニエル1:4）りました。バビロニア人たちは、この優秀な若者たちに手荒な真似はしませんでしたが、名前を変えさせられ、カルデア人の文字と言語を学ばせ、バビロンの価値観や世界観を強制的に植えつける洗脳教育が施されたのでした。そして、食事は王の食卓から食べることになっていましたが、それは王に対する忠誠と依存を表すものでした。さらに通常、食べ物は偶像の神々にささげられたものだったので、宗教的な意味あいもありました。彼らは、他の捕囚とされたユダの人々とは違う大きな恩恵を受け、ほんの少しだけ融通を聞かせれば、将来は宮廷の役人としての地位が約束されたわけです。果たして、4人の若者たちはどうするのでしょうか。

【火曜日・揺るぎない決意】

「ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、自分を汚すようなことはさせないでほしいと侍従長に願い出た。」ダニエル1:8

4人の青年たちの名前が変えられてしまったことは仕方がありませんでした。バビロンの人たちがそのように呼ぶのですから。ただ食事については問題がありました。偶像に捧げられた肉を口にすることによって、自らが汚されることは避けたいことでした。そもそも神様が人間に食物としてお与えになったのは、野菜や果物、穀類などであり、それに勝るものはないのです。侍従長は彼らが病気になることを恐れましたが、10日間試してみたところ誰よりも健康そうだったので、この問題は無事解決することができました。この場面で重要なのは、菜食か肉食かという問題ではなく、彼らが信仰により食べないと決心したということです。何を食べるか食べないかは、大きな問題ではないかもしれません。しかし、食事は毎日のことです。小さな決心の積み重ねが、やがて3人の青年が直面した金の象を拝ませる出来事やダニエルが直面した真実の神に祈りを捧げてはならないことなどの命の危険を伴うような決断を迫られたときに、大きな力となるということを教えているのです。

【水曜日・身に傷がなく、賢明な】

「彼らは体に難点がなく、容姿が美しく…」ダニエル1:4

ネブカドネツァル王は王宮に仕える能力を備えている青年を選ぶにあたって、体に全く欠陥がなく（傷がなく・口語訳）ものたちを選びました。これは聖所の犠牲も聖所で働く人たちも同様の条件が求められたという点で似ています。このような資質は、ダニエルたちが信仰の挑戦を受けたとき、彼らが生ける犠牲であったことを図らずも示唆していたのかもしれません。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」ガラテヤ2･19 ,20

罪に縛られた古い私はキリストの十字架と共に死に、今やキリストが新しい私を生きておられます。それは罪を悲しみ、善を行いたいと欲する自分があることでわかります。しかし、わたしたちはどれほど、このもはや生きているのは私ではなくキリストであるという感覚を持って生きているでしょうか。この御言葉は毎日瞑想する価値があります。そして、自分の中で真実としていく必要があります。内に生きておられるキリストの力が働くときに、様々な誘惑にも勝利できるようになります。

「このしばらくの軽い苦難は、私たちの内に働いて、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます」（コリント二4：17）にあるように、この世には軽い苦難はあります。しかし、それを乗り越えた先に待っている、比較にならない永遠の栄光をもたらしてくれるのです。

【木曜日・最終試験】

「十日たってみると、彼らの顔色と健康は宮廷の食べ物を受けているどの少年よりも良かった」ダニエル1:5

10日後、野菜だけを食べた4人の若者たちの健康は、他の誰よりも良い者でした。そして、「王は知恵と理解力を要する事柄があれば彼らに意見を求めたが、彼らは常に国中のどの占い師、祈祷師よりも十倍も優れていた」（ダニエル1:20）とあるように、神様は彼らに優れた知恵をもお与えになりました。このような一連の結果からわかることは、聖書の教えとは異なる環境の中でもそれを乗り越える力を神様がお与えくださること、そしてこの世の社会の中でも、優れた結果を出せる者として導いてくださることです。